



CC-2 (48 kHz 動作)における V5.1 [1]ポストの仕様

チャンネル構成

- ・ 最大 256 個のトラックとライブモードに切り替え可能なフルチャンネル
- ・ 最大 192 チャンネル録音
- ・ 最大 768 の追加プレイバック専用チャンネル

チャンネル機能

- ・ クリップタイムラッピングとサンプルレート変換
- ・ 6 バンド EQ
- ・ エクスパンション/ゲート、コンプレッサ、リミッタ
- ・ インサートポイント (フルチャンネルのみ)
- ・ ダイレクトアウト (フルチャンネルのみ)
- ・ 4 バンドクリップベース EQ

バス構成

- ・ 最大 128 バスを下記の通り構成可能
 - ・ 24 モノマルチトラックバス
 - ・ 24 サブバス
 - ・ 24 Aux バス
 - ・ 8 メインバス
- ・ Aux とサブバスはメインバスに直接ミックス可能
- ・ AFL、PFL、インプレースソロ
- ・ 三次元音響や 24 ステム構成まで対応
- ・ 32VCA グループ

バス機能 [2]

- ・ 4 バンド EQ
- ・ コンプレッサとリミッタ
- ・ インサートポイント
- ・ ダイレクトアウト

プラグイン

- ・ 各チャンネルあるいはバスに対し最大 6 VST プラグイン
- ・ Xynergi および EVO コントローラで、プラグインの高操作感コントロールが可能
- ・ プラグインを完全にオートメーション可能

I/O

- ・ 450 入出力までサポート
- ・ I/O デバイスの選択、12 から 66 までのアナログとデジタル信号の組み合わせが可能
- ・ ビルトイン 64 チャンネル MADI I/O (同軸)

- ・ 6 MADI I/O (同軸あるいは光) の追加オプション
- ・ ワードクロックおよびビデオへの同期
- ・ LTC と MIDI の読み書き

ビデオ

- ・ 最大 2 トラックまでの再生
- ・ キャプチャは 1 トラック
- ・ SD から 4K までの精細度
- ・ ゲンロック I/O オプションに対応

ファイルフォーマットとワークフロー

- ・ 標準的なオーディオ交換ファイルの読み書き
- ・ 多くの SD および HD プロ用ビデオフォーマットの読み込み
- ・ 同じプロジェクトで異なるビデオフォーマットの混在が可能
- ・ Adobe® Anywhere と Quantel QTube のワークフローをサポート

オートメーション

- ・ 全チャンネルとバスのパラメータがオートメーション可能
- ・ 多様なタッチモード
- ・ オートメーションデータのグラフィック編集
- ・ オーディオ/ビデオ/オートメーションの同時編集

その他

- ・ ミリ秒以下の遅延でのオーディオ信号処理
- ・ 最大 24 ボイスと 8 出力バスまでのカートファシリティ
- ・ ビルトイン 9 ピン・マシンコントロール
- ・ キューリスト、ストリーマ、マシンコントロールを含んだ ADR 機能
- ・ 検索と即時オーディションが可能な効果音データベース
- ・ オートコンフォームとリコーフォーム・ソフトウェア
- ・ ビルトインされたスクリプト言語およびピクチャキー・マッピングツールによるカスタマイズ
- ・ プログラマブル GPI/O 拡張サポート

[1] V5.1 は 2015 年第 2 四半期リリース予定。

[2] マルチトラックバスには備わっていません。